

「宗祖降誕会」を迎えて

親鸞聖人は、平安時代の末、1173年5月21日に藤原氏の一門であった日野有範の子として、京都の東南日野の里で誕生されました。

そして9歳の春、仏の道に進もうと決心して、京都青蓮院の慈円僧正に従って出家し、比叡山に登られました。（『明日ありと思う心のあだ桜、夜半に嵐の吹かぬものかは』という和歌を詠んで出家したといわれています。）

その後20年間、比叡山で修業し、29歳のとき修業に満足できず、京都の街に下りて、六角堂に参籠し（六角堂は聖徳太子の創建と伝えられる。100日の祈願を修行）、95日目の暁、聖徳太子の示現にあずかり、法然上人の門に入られました。法然69歳、親鸞29歳の出会いでありました。



「信ずるほかに別の子細なきなり…。たとえ、法然上人にすかされまいらせて(騙されて)念仏して地獄におちたりとも、さらに後悔すべからずそうろう」(歎異抄)と親鸞聖人は述べています。これは「法然上人から念仏を唱えれば救われて極楽に行くと教えられたのに、それは全くの嘘で念仏を唱えて死んでみたら地獄だった。たとえそうであっても私は後悔しません。」という、とても強く、また深い子弟関係であったことがわかります。

以来6年間、恩師の肉声を聞き（念仏弾圧、承元の法難により別々の地に流罪となり、二度と会うことができませんでした。）、その教えを以後、60年に渡って燃焼しつづけました。

専修念仏・・・それは阿弥陀仏の本願を信じ、南無阿弥陀仏と称えて救われ、浄土に迎えられるという宗教であります。

1262年1月16日、90歳で亡くなられる（入滅往生）まで、阿弥陀仏信仰一仏に生かされる日々を過ごされました。

今日一日、親鸞聖人のご誕生日をみなさんと共にお祝い致しましょう。